

番号	質問	回答
1. 商品等の内容 (当金庫は、組成会社等の委託を受け、お客様に商品の販売の勧誘を行っています)		
①	あなたの金庫が提供する商品のうち、この商品が、私の知識、経験、財産状況、ライフプラン、投資目的に照らして、ふさわしいという根拠は何か。	<ul style="list-style-type: none"> ・当金庫では、お客様にふさわしい商品・サービスの提供に努めます。お客様のご意向を的確にとらえ、適切であると判断した、商品提案をさせていただきます。またお客様にふさわしい商品について、お客様とともに考えます。そのため、ニーズや目的をしっかりと伺いした上で、お客様の知識・投資経験・資産の状況等に照らし、適切な商品のご提供をするように心がけます。なお、商品の特性・リスク等を踏まえ、お客様にとってふさわしいとはいえない可能性がある判断した場合には、必要に応じてお客様と相談し、ご提案を控えさせていただきますこととさせていただきます。
②	この商品を購入した場合、どのようなフォローアップを受けることができるのか。	<ul style="list-style-type: none"> ・当金庫で現在販売を行っている投資信託について、月次でマンスリーレポート(運用レポート)を当金庫ホームページに掲載しています。 [個人のお客様]または[法人のお客様]からマーケット情報>ファンド一覧>各投資信託のファンド詳細「月次レポート」でご確認いただけます。 ・マーケットの変化や投資信託の運用状況等をふまえ、継続的な情報提供に努めています。 ・対面にて投資信託をご購入いただいたお客様に、営業担当者及びMA(マネーアドバイザー)より、定期アフターフォローを実施して、保有ファンドの運用状況をお伝えしております。また、基準価額 5%下落時には、運用会社が発行する臨時レポートをもとに、ファンドを保有するお客様に、臨時アフターフォローを行っております。アフターフォロー実施の際は、投資信託に関すること以外でも、気になる点があれば、ご連絡いただけるようご案内しています。
③	この商品が複数の商品を組み合わせたものである場合、個々の商品購入と比べて、どのようなメリット・デメリットがあるのか。	<ul style="list-style-type: none"> ・投資信託は一般的に複数の金融商品(株式、債券、投資信託等)を組み合わせた商品です。複数の金融商品に分散して投資を行うため、株式等を個別に購入するよりもリスクが分散されています。投資信託に投資する主なメリットは、少ない金額でも分散して投資を行うことができることです。また、つみたて型や複数の資産を組み合わせたバランス型ファンドを選択することで、投資対象資産の分散も行えます。 ・運用知識や経験を有する運用の専門家がお客様に代わって運用を行います。 ・主なデメリットは、購入時の手数料や信託報酬(運用管理費用)等が掛かることです。
2. リスクと運用実績 (本商品は、元本が保証されず、損失が生じるリスクがあります)		
④	上記リスクについて、私が理解できるように説明してほしい。	<ul style="list-style-type: none"> ・基準価額の変動要因等の投資リスクの詳細については、各投資信託説明書(交付目論見書)でご確認いただけます。 ・保有する商品の特性によって、以下のリスクを含む場合があります。 ・価格変動リスク:資産の価格が下落するリスク。 ・為替変動リスク:外貨建資産について為替レートの変動による下落リスク。 ・流動性リスク:流動性の低下により期待する価格で売買できないリスク。 ・信用リスク:発行体の経営状態の悪化等により価格が下落するリスク。 ・カントリーリスク:投資対象国・地域の政治、経済および社会情勢の変化により価格が下落するリスク。
⑤	相対的にリスクが低い類似商品はあるのか。あればその商品について説明してほしい。	<ul style="list-style-type: none"> ・投資信託は一般的には株式より債券の方がリスクを抑えた運用になります。また、外貨建ての有価証券に投資する投資信託よりも、円建ての有価証券に投資する投資信託や為替ヘッジ付きの投資信託の方が、一般的にはリスクが低いと考えられます。

3. 費用（本商品の購入又は保有には、費用が発生します）

⑥	私がこの商品に〇〇万円を投資したら、それぞれのコストが実際にいくらかかるのか説明してほしい。	<p>・購入時に支払う費用：手数料＝購入金額×購入時手数料率（税込み） ※手数料率は購入金額によって異なる場合があります、詳細は目論見書補完書面でご確認ください。</p> <p>・継続的に負担する費用：信託報酬＝投資残高×信託報酬率（税込み） ※信託報酬率は目論見書等をご確認ください。</p> <p>【例】 ・購入時手数料率 3.3%（税込み） 信託報酬年率 1.68%（税込み）のファンドを100万円購入した場合、購入時手数料は100万円×3.3%＝33,000円、1年間に負担する信託報酬の金額は100万円×1.68%＝16,800円となります。 ただし、上記の信託報酬は、基準価額に変動がない前提で計算しています。実際には基準価額は変動し、信託報酬は日々計算されるため、上記と異なる金額になります。解約時に信託財産留保額がかかる場合があります。詳しくは目論見書でご確認いただけます。</p>
⑦	費用がより安い類似商品はあるか。あればその商品について説明してほしい。	<p>・当金庫ホームページの[個人のお客様]または[法人のお客様]からマーケット情報>ファンド検索>詳細検索orロボアド「質問に答えて探す」で、検索いただくことで、投資目的・目標にあったファンドをご確認いただけます。</p>

4. 換金・解約条件（本商品を解約する場合、一定の不利益を被ることがあります）

⑧	私がこの商品を解約するとき、具体的にどのような制限や不利益があるのかについて説明してほしい。	<p>・投資信託の解約時には、※信託財産留保額や解約時手数料がかかる場合があります。（なお、現在取り扱っている商品の中で、解約時手数料がかかるファンドはございません。）</p> <p>・各投資信託には、注文停止日（海外休日）があり、購入・換金のお申込みの受付を行えない日があります。また、投資信託によっては、運用に支障をきたさないために、大口の換金に対して受付時間や金額の制限を行う場合があります。</p> <p>・投資信託の申込時間には制限があり、また、受渡日までに日数がかかります。</p> <p>・投資信託を短期間で解約した場合、保有期間あたりの購入時手数料が長期間保有対比で割高になります。詳細は目論見書補完書面の「購入時手数料に関するご説明」の例をご確認ください。</p> <p>・換金・解約に関する事項の詳細は、目論見書の「購入・換金申込不可日」「換金制限」「購入・換金申込受付の中止及び取消し」「信託財産留保額」「換金時手数料」欄でご確認いただけます。</p> <p>※信託財産留保額とは、投資信託を解約する際に投資家が負担する費用の事です。解約時のファンドの価格（基準価額）から、「信託財産留保額」を差し引いた価格が解約代金を計算する価格（解約価額）となります。投資信託を解約するためには、投資信託の中の資産を売却することとなり、そのためにかかる手数料を解約する投資家に負担してもらう仕組みとなっています。</p>
---	--	---

5. 当金庫の利益とお客様の利益が反する可能性

⑨	あなたの金庫が得る手数料が高い商品など、私の利益よりあなたの金庫やあなたの利益を優先した商品を私に薦めていないか。私の利益よりあなたの利益を優先する可能性がある場合、あなたの金庫では、どのような対策をとっているのか。	<p>・当金庫では、法令諸規則のみならず社会通念や良識に照らし合わせ、高い倫理観を持って業務に取り組みます。お客様に対して適切ではない取引が行われることのないよう、お客様との利益相反の可能性を把握し、適切に管理します。お客様との間の利益相反の可能性を十分把握し、適切に管理するため、利益相反管理方針を策定、公表しています。</p>
---	--	---